

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

前期

科目No.	501	科目名	科学コミュニケーション学概論		サブネーム	科学技術と社会に関する議論		
共催機関名		レベル	基礎		講義枠	土曜日	講義時間	10:00~11:30, 11:50~13:20
科目概要	今日、科学技術と社会を巡る様々な問題が存在している。地球環境、原子力、食の安全性、生命操作…などの問題である。そういった問題は、すべて固有の特徴を持ち、専門的かつ学際的なものであり、したがって容易に解決できるものではない。しかし、こういった問題を考えるための基本的な枠組みや考え方については、これまで培われてきたものも多数ある。この科目は、そういった科学技術と社会に係りを考えるための「考え方」について説明を行う。							

サブタイトル	講義名	講義概要	講義日	教室	講義時間	講師名	所属
入門	1 はじめに	そもそも現代の科学技術と社会の問題とはどういうものなのか、科学論および科学技術社会論の立場から解説する。そして、本科目の学習内容および問題の射程を示す。	4月16日	205			
科学論(科学の歴史と哲学)	2 科学とは何か	「科学技術と社会」について学ぶにあたって前提となる「科学とは何か」という問題について扱う。特に、科学的知識は他の知識と比べてどのような性質を持つと言えるのかという点から考察を行う。	4月16日	205			
	3 近代科学の成立	様々な「科学技術と社会」の問題の根源とされる「近代科学」とは、どのように生まれ、いったいどのようなものだったのか。そして近代以前とはいったい何が違っていたのか。そのことを歴史的に考察する。	4月23日	205			
	4 科学者とは何か	社会的な存在としての「研究者」のあり方の多様性について扱う。近代科学の成立以後、研究者の社会的な意味は時代とともに変化してきており、その歴史を解説する。	4月23日	205			
科学技術社会論	5 科学技術と論争	科学、技術、社会の関係は、そもそもどのように理解すべきなのか、そして、科学技術と社会を巡る論争にはどのような種類があるのか、といった問題を整理し解説する。	5月7日	205			
	6 科学技術と国家	現代の科学技術の展開において、国家の果たす役割は大きい。その国家の役割の変遷について、とりわけ日本を例に取りながら考察する。	5月7日	205			
	7 科学技術と評価	科学技術研究は評価の対象となる。その評価の意味、方法、現状について考察する。	5月14日	205			
	8 科学技術をめぐる合意形成	科学技術と社会のつながりが強いものになるにしたがって、科学技術をめぐる様々な問題について政治的な解決が求められることになってくる。それは安全、倫理、経済性などの観点からである。そして問題解決のための様々な合意形成の手法が考えられてきた。その手法を具体的な事例とともに考察する。	5月14日	205	林 真理		工学院大学
	9 科学技術と意思決定	科学技術と社会を巡る合意形成の場では、意思決定の考え方が重要になってくる。そういった場で重要になる基本的な考え方について紹介する。	5月21日	205			
	10 科学技術と市民参加	科学技術にかかわる意思決定の場において、市民参加の必要性がますます説かれるようになってきている。そういった必要性について考察し、実際の参加手法について紹介する。	5月21日	205			
	11 リスクの考え方	リスクにかかわる様々な論争が存在しているが、リスク論の考え方の前提と、社会的な視点を取り込んだリスクの考え方について考察する。	5月28日	205			
	12 知的財産権の考え方	今日非常に注目されている「知的財産」の考え方を、科学技術と社会という観点から見直す。	5月28日	205			
	13 科学技術者の倫理	科学技術と社会の問題が、個々の科学者・技術者の倫理の問題とされる場面がある。そういった現象について考察を行う。	6月11日	101			
	14 市民の科学技術理解	今日の科学技術と社会の問題では、市民が欠くことのできないエージェントとなっている。その際に大きな問題とされる市民の科学技術理解の問題とはどのようなものか、考察を行う。	6月11日	101			
まとめ	15 まとめ:科学技術の公共性とコミュニケーション	ここまで学んできたことを踏まえて、現代社会における科学技術をめぐるコミュニケーションはどうあるべきかを考察する。	6月18日	205			